

設備工事情報シート	衛生	I-P-25-改 ₃	制定	2005年4月1日
			改訂	2019年3月1日
施工要領	樹脂管の防火区画貫通部の処置		積水化学工業編	

1. 目的・概要

共同住宅の給水および給湯配管に使用される樹脂管（架橋ポリエチレン管およびポリブテン管）の防火区画貫通部の防火措置工法には、熱膨張材の使用による防火措置工法がある。共住区画を貫通する防火措置工法は国土交通大臣の認定・（財）日本消防設備安全センターの評定を取得した工法であるが、メーカーごとに異なるため、認識不足による不具合を防止するには、施工前に採用メーカーの工法を確認する必要がある。以下に、積水化学工業の施工要領および施工のポイントを示す。

2. 火災の延焼を防止する原理

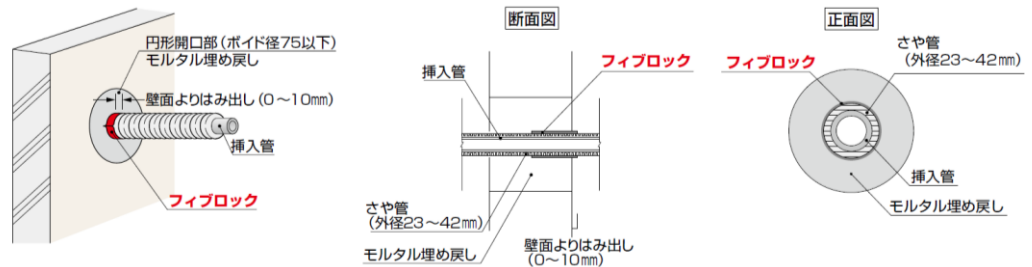
●フィブロックの仕組み



シート状のプラスチック系耐火材料（黒鉛含有のブチルゴムシート）が200℃以上の加熱で膨張し、火災発生と同時に高断熱層を形成することにより火の浸入を防ぐ。

3. 施工手順（フィブロックさや管用、コンクリート壁・床の場合）

標準施工図

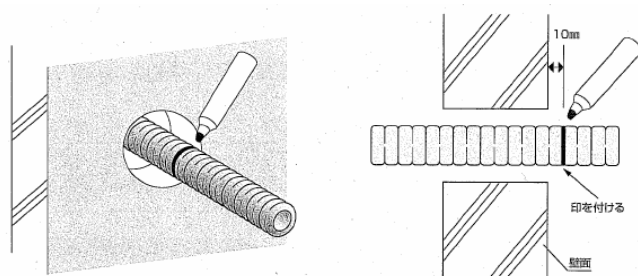


(1) 施工前確認

- ・貫通する配管のサイズが適正かどうか確認する。
- ・配管の貫通する開口部が所定の寸法内にあるか確認する。

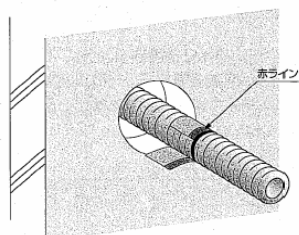
(2) 下地の清掃：区画貫通用テープを確実に巻きつけるためにパイプ表面の埃や汚れを除去する。

(3) 区画貫通用テープの位置決め



- ①区画貫通するパイプの壁面または床面から10mmに位置する部分にマーキングする。
- ②配管、モルタル埋め戻し後に、区画貫通用テープの有無が確認できるように、この印部分に区画貫通用テープを巻きつける。

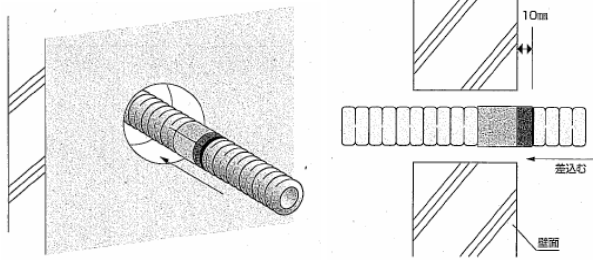
(4) 区画貫通用テープの巻きつけ



- ①区画貫通用テープをパイプの外周長プラス10mm程度の長さでカットする。
- ②区画貫通用テープに表示の『施工検査のためこちら側を10mm以下出してください』に従い、赤いラインのある側が壁面または床上からはみ出すように巻きつける。
- ③余った部分は剥離防止のため、粘着面同士をあわせて確実に固定する。

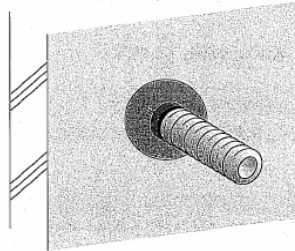
資 料

(5) パイプの支持・固定



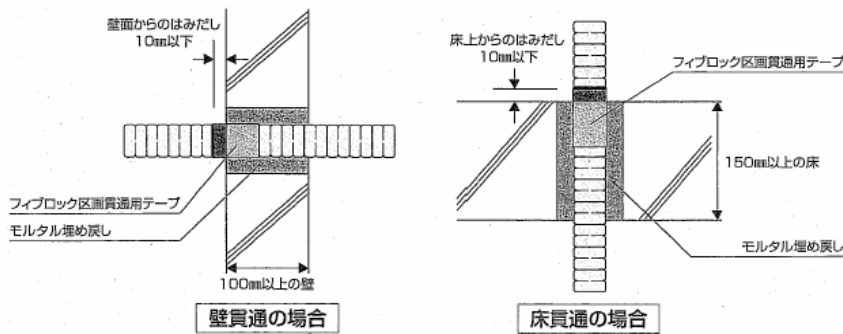
①区画貫通用テープの端部が壁面または床上から10mm以下はみ出すように確実に支持・固定する。

(6) モルタルの埋め戻し



①開口部をモルタルにて充填する。

(7) 検査 [標準施工状態]



①区画貫通用テープが壁面または床面から10mm以下出ていることを確認する。

②モルタルが密に充填されていることを確認する。

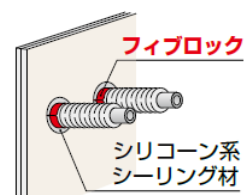
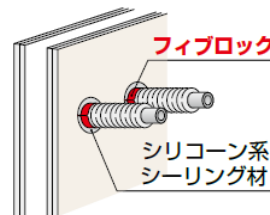
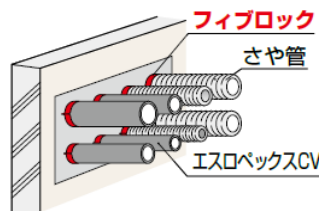
※ALCの壁・床用、中空壁用もある。メーカーの施工要領に従い施工する。

【施工例】

●ALC・コンクリートの場合

●中空壁の場合

●片壁の場合



※国土交通大臣認定のみ

4. 問い合わせ先

積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー

東北支店 設備システム営業所 022(217)0608	中部支店 設備システム営業所 052(307)6806	九州支店 設備システム営業所 092(271)1314
東日本支店 建築営業部	西日本支店	積水化学北海道(株) 建築・ストック営業部 011(737)6330
東京設備システム営業所 03(5521)0641	近畿設備システム営業所 06(6365)4503	
関東設備システム営業所 048(646)0160	中国設備システム営業所 082(224)6251	
横浜営業所 045(311)9115	北陸営業所 076(231)4245	
静岡営業所 054(275)0720	京滋営業所 075(662)3418	
甲信営業所 0263(38)1220	四国営業所 087(821)2113	
東関東営業所 043(204)5070		